
ミレニアムなアイツと侵略計画

BJHS文芸部・東沢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ミレニアムなアイツと侵略計画

【Nコード】

N65390

【作者名】

B J H S 文芸部・東沢

【あらすじ】

「ミレニアム」といえば二〇〇〇年！二〇〇〇年ぐらいといえば恐怖の大王！？
そんな雑な発想から生まれた掌編です。

西暦二〇〇〇年。今年はキリスト教的にはなんだか意味のある年らしいが、年末にはクリスマスを祝い、正月には神社に行くような一般的な高校生である俺には全く関係ない話だ。

そんなことを考えながら居間でぼーっとテレビを見てみると、二階から大きな物音が聞こえてきた。

まずい、積んでたゲームがついに崩れたか!?

俺はそう思っただけで部屋へと駆け上がった。ドアを開けると

「うおっ!」

そこにあつたのは、無残に崩れ去ったゲームソフト達の山……ではなく、「DIE O」とプリントが入ったTシャツを着ている、腰まで届くポニーテールの可愛い中学生くらいの少女だった。

「デューオ……?」

俺は状況が全く把握できず、少女のTシャツの文字をバカっぽく読んでしまった。

「違う! 大王! Die O!」

しかもなんか反論された。

というよりなんでこんな奴が俺の部屋にいるんだ?

俺は驚きを通り越して呆れていた。

「私の名前は恐怖の大王。アングルモアを復活させて地球を侵略するために来ました」

少女はニヤリと笑った。

場が凍った。というより俺が凍った。恐怖の大王だと?

「なあ……恐怖の大王が来るのって、去年じゃなかったか?」

今度は”自称”恐怖の大王が凍りついた。

……わかった。こいつはバカだ。

「ななな何を言ってるのかわかりません! 今は一九九九年ですも

んね？」

「今は二〇〇〇年の一月三日だ。つまり君の来るべき年はつい三日前に終了してしまったのだよ」

そこまでいって大王の方を見ると、怒りからか恥ずかしさからか顔を真っ赤にして震えていた。良い気味だ。

「大体勝手に人の部屋に上がりこんでこんな一年遅れのギャグをやるなんてどういふつもりなんだ？」

「ふふふ、それにはちゃんと理由があるのです。というかギャグじゃありません」

そう言って大王はさっきの様子はどこへやら、にこやかに俺の部屋の床から一冊の本を拾い上げた。俺の本じゃないから、自分でわざわざ持ち込んだらう。ご苦労なこった。

「それを見てください」

俺は大王の差し出した本を受け取って、「トスノダラムスの大予言」と書かれた表紙を見た。

……パクリじゃん。これ。というか名前どうなってるんだ。

「ノストラダムス」と内容も全く一緒。

「その本は私の存在が記された門外不出の本なのです！」

案の定、背表紙には「禁貸出」と書いてあった。図書館から持ってきたのかよ。マナー違反だろ。

そのくせ本人は勝ち誇った顔でニヤニヤしてやがる。驚いたか、とでもいいいたいだらう。

……俺はこの不法侵入大王を警察に突き出すことにした。

携帯を取り出し、「ー」「ー」「ー」「ー」をダイヤルする。

「こらーっ！ 人の話を聞けー！」

大王が叫んでるが、無視。話なら警察のおっちゃんに聞いてもらえ。

「うつうつ……無視とは酷いですね……ま、丁度いいですね。私の力をみせてあげます！」

発信音が止まった。

「もしもし警察ですか？ アホな不法侵入者が」
無言。

耳から外して画面を見してみる。

通話は切れていて、待受画面に表示が戻っていた。……そして、画面には「エラーが発生しました」の文字。

大王の方を見ると、また不敵にニヤニヤしていた。

「ミレニウム・バグ」として知られる、二〇〇〇年一月一日になったときにコンピュータが日付を処理できなくなるバグ。俺はそれを感じ浮かべた。

……でも今は三日だ。なぜ一月一日にでなく今更なのかは知らない。もしかすると本当にこいつが恐怖の大王なのか？俺は部屋に入る前のことを考える。テレビを見てる時に聞いた物音。今考えるとあれは物が落ちた「ドシン」という音ではなくどちらかというところ「ドーン」という爆発音に似ていたような

「どうですか？」

こっちの逡巡など全く意に介さず本当にうれしそうな顔をして聞いてやがる。

「どうって……ところでキミはこれの他に何かできるの？」

大王はおもいつきりコケた。ひとりでバックドロップが出来るなんてずいぶん器用だな。凶星か。

「キミは確かに恐怖の大王だ。それは認めよう」

俺がそう言うのを聞いた大王は、とたんにぱあっと明るい顔になる。違う意味でも十分恐怖だがな。特にバカ加減。

「でも、これからどうするの？ コンピューターをフリーズさせられるだけじゃ地球侵略なんて無理だろ？」

「そ、それは……」

今度はシュンとなる。表情をコロコロ変わって忙しい奴だ。

「そこは私の悩殺セクシーアタックで」

「出来るかって」

誰がそんな幼児体型で悩殺されるんだよ。可愛いけど。……なん

かバカすぎて不憫になってきた。

「……」

また黙りこんでしまった。

「じゃあ、とりあえず今日はどうするつもりなんだよ？ 恐怖の大王なら、『空』から落ちてきたんだろ？ 帰る所無いんじゃないのか？」

「……」

「キミが嫌じゃなかったらここにいてもいいよ。 どうせこんな広い家に一人暮らしだし」

「……あなたが変態ロリコンじゃなければぜひお願いします」

「誰が変態か！」

ここで泊めなかったら変態の上にヘタレってことになるんだろうな……

俺はそんなことをぼやきつつ、二人分の用意を始めるのだった。

この後、こいつのせいで俺の学校生活にも大波乱が起きるのだが

それはまた別の話。

（後書き）

実は初めて書き上げた小説だったりします。

タイトルから分かるようにもとは電撃LLのように書いたものです。
恐怖の大王は結構可愛くかけたのではないでしょう（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6539o/>

ミレニアムなアイツと侵略計画

2010年11月1日22時55分発行